



1999年度前期行事予定4月1日~9月30日

4月1日(木)	入学式(第43回)	8月2日(月)	推薦入学試験(10月入学生)
2日(金)	新入生オリエンテーション (履修方法・一部登録)	2日(月)~5日(木)	水泳実習(保1)
5日(月)	1年次単位登録 就職ガイダンス(2年次)	5日(木)	成績伝票提出
6日(火)	新入生オリエンテーション (学生生活全般)	5日(木)~7日(土)	サマー聖書キャンプ
7日(水)	講義開始	9日(月)~16日(月)	同時通訳集中講座(基礎・上級)
7日(水)~13日(火)	登録調整期間	19日(木)~25日(水)	学校休業日
9日(金)	開学記念日	20日(金)~30日(月)	フレンドシップキャンプ(台湾)
21日(水)~24日(土)	新入生オリエンテーションキャンプ 実習園訪問(保2)	29日(日)~9月19日(日)	海外研修(MSU)
5月15日(土)	スポーツデー	9月6日(月)~24日(金)	幼稚園教育実習
31日(月)	定期健診	9日(木)	卒業判定教授会
6月7日(月)~11日(金)	キリスト教週間	10日(金)	外国人科目等履修生 (面接・英語・日本語テスト)
14日(月)~26日(土)	保育実習1(保2)	13日(月)~25日(土)	中学校教育実習 英語パワーアップ講座
7月8日(木)	全学集会	20日(月)15:00	卒業式(10月入学生外国人留学生等)
24日(土)	講義終了	22日(水)	成績通知・登録資料配布 科目等履修生面接・登録(一般)
26日(月)~31日(土)	期末テスト期間	28日(火)	2年次単位登録
夏季休業期間8月1日~9月30日			

【部署長等人事】

(任期:1999年4月~2001年3月)

宗教部長 神山繁實(留任)
 教務部長 下地玄毅(II)
 学生部長 喜友名静子(II)
 図書館長 漢那憲治(II)
 英語科長 比嘉健次郎
 保育科長 山城真紀子
 総合教育系主任 渡久地政順(留任)
 情報センター長 漢那憲治(II)
 国際交流室長 James A. Ross(II)

【四年制大学設置委員】

(任期:1998年12月1日~2000年11月30日)

原喜美(学長)
 山里恵子(英語科教授)
 山城真紀子(保育科助教授)
 James A. Ross(英語科講師)
 宮国薰子(英語科講師)
 宮元和子(学生課主任)
 新垣攻信(四大設置事務室事務長)

■採用

當山りえ(保育科助手)

1999年4月1日付

仲本美奈(教務課書記)

1999年4月1日付

■退職

渡久山朝裕(保育科助教授)

1999年3月31日付



編集後記

春です。またまた出会いとわかれのシーズン到来です。学内もソワソワ、ザワザワのあわただしい季節です。経済の低迷する中、県内女子学生の就職率が30%と苦難の時代です。この厳しい状況をしっかりと生きていほしいものである。(H.K.)

編集委員:島袋忠雄/渡久山朝裕/宮国薰子/山原恵治/外間きみ子



学報 第44号

沖縄県西原町字翁長777
 ☎(098)946-1240 ☎(098)946-1241
 発行/沖縄キリスト教短期大学企画課
 編集/学報委員会
 URL:<http://www.ocjc.ac.jp/>



記事内容

★ がんばってます卒業生

人が自分を磨き・輝かせる…29期卒 宮城文美
 Challenge Yourself…33期卒 伊是名かすみ
 今ある「出会い」を大切に…24期卒 木脇清美
 ソウルよりアンニヨンハセヨ…35期卒 仲村美香

★ キャンパスニュース

キリ短を去るにあたって…保育科助教授 渡久山朝裕
 地域の子供を対象とする仲よしプログラム

第10回高校生英語弁論大会

沖縄キリスト教短大紀要第27号発行

★ 台湾フレンド・シップ・レポート…保坂麻希子

★ 新任カウンセラー自己紹介…田崎幸枝

★ 寄付感謝報告

★ 1999年度前期行事予定

★ 人事



神の栄光の輝き

学長原 喜美

最近は右をみても、左をみても、暗いニュースばかりで、世紀末のきびしさが、意図的に誇張されているようである。「経済大国」を自他共に認めてきた日本は、不況の波に押し流され、経済的視点からのみ、危機感を煽られているのではないかと考える。

私事で恐縮であるが、健康を過信していた私が、11月初めから約1か月半、腰痛の為入院生活を送らざるを得なかつた。その間、多くの友人、同僚の方々、主治医の先生、看護に当つて下さつた病院の方々、そして遠くに住む家族たちのあたたかい心に触ることができて幸いであった。腰痛により、体を動かす自由を奪われ、ごく基本的な動作を行なう事すら不可能になつた。立つたり、座つたり、手を延ばして物を取つたり、着替えをしたり、靴下をはいたり、横になつたり、寝返りを打つたり、幼児でも簡単にできる動作ができなくなつた。腰はたしかに体の要である。

私が入院していた病棟にはガンの手術をされた患者さんが多く、特に高齢者の方々が目立つてゐた。私にとっては新しい集団生活で、私は絶対に避けて通ることのできない、死について考えることができて幸いであった。マザーテレサのインドにおける御働き、「人間らしく死ぬ」という事に、想いを馳せていた。

このような状況にあったある夜、私の所属する上地教会の信仰の友、伊禮洋子姉が、わざわざ訪ねて下さつた。彼女はあつい祈りと共に、「静寂の時」と題する写真集を届けて下さつた。それは旧約聖書詩篇を基にして、神



の栄光のあらわれである信州の大自然の美しさを写したコレクションで、私の魂に深い驚きと、慰めをもたらした。ふと著者をみると、私が30年も前に、東京の大学でアドバイザーとして出会つた森本二太郎氏であった。私も彼を愛称の「二太郎」と呼びすてにしていた間柄で、神の栄光をこのようにすばらしい形で伝えようとされる彼の想いに感涙した。

それから少し経つて1月の中旬、思いがけず私の愛敬する友人、現在、難民高等弁務官を勤められる緒方貞子女史に久しぶりに親しくお目にかかる機会を得た。緒方先生は初めてのご来沖で、沖縄の抱える問題にも深い理解を示されたが、状況的には較べものにならないような危機的環境で、強制的に故郷を追われた2200万人の生存権を守る為に世界中東奔西走しておられる。20世紀末の抱える最も緊急な人道上の課題を正面から立ち向い奮闘しておられる様子に深い尊敬の念を覚えた。そして世界の平和の為に汗を流して働くこととはどういう事であるかを教えられた。緒方先生は難民白書の中で「21世紀を目前にして、世界の人々の保護を確実なものにする為には、地球市民としての共感と連帯の意識を強化する以外にはありません。世界のあらゆる場所で、人々が自分の国や町や村で安全に暮らせる日がくることを願つてやみません。」と述べておられる。

40数年前に焼土の中から神の栄光のあらわれとして創立された本短大も、この世紀末から、新しくやって来る21世紀に向ひ、4年制大学設立を目指して前進しようとしている。困難な時代ならば、一層われわれの奮起が必要である。イエス・キリストの愛に満たされ、御意により押し出され再び神の栄光を見る事ができるよう4年制大学建設のため、皆様一人ひとりの心からなるご協力を切に祈つてやみません。

ろに小さなガソリンスタンドと掘つ立て小屋のようなモーテルとこざっぱりしたパブリックがあって、そこで夕食をとった。本当に救われた気持ちがした。しかし、宿泊場所を考えると、またもや不安がよぎった。周りのテーブル・イスやつい立て等あるだけの道具を窓辺やドアの後ろに立て掛け、安全の確保をして眠りについた。翌朝、ドアの向こうに、これまで経験したことの無い、また今後経験する事がないであろう感動的で壮大な景色を目の当たりにした。思わず目を見張った。真っ白な雪をいただいた連峰が朝日を浴びて、人間を威圧するかのようにそそり立っていた。その時、私は、ロッキー山脈の谷間に居たのである。詩編の言葉を思い出した。「わたしは山に向かって目を上げる。わが助けはどちらから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る」(詩編121:1-2)。この鮮烈な印象は、今も変わることがない。

わたしと聖句



「山に向かって」

総合教育系教授 神山 繁實

10年前のこと、ミシガンで11月の声を聞いた頃、雪がちらつき始めた。雪が本格的に降り始める前にロッキー山脈を越えてサンフランシスコにたどり着かなければならない。友人宅を辞して2日目の深夜のドライブであった。普通なら、こんなに遅くまで車を走らせることはしないが、旧道をはしつたためモーテルが見つからず、家1軒見えない真っ暗な夜道を数時間、不安な気持ちを押さえながらひたすら走った。12時前になってかすかな灯が見えた。工事現場らしいとこ



ハワイ・グレート・ティーチャーズセミナーに参加して

英語科講師 宮国 薫子



私は1998年、8月9日から約一週間、宇流麻学術研究助成基金を受けて第10回ハワイ・グレート・ティーチャーズ・セミナーに、参加した。このセミナーは、全米のコミュニティーカレッジの様々な分野で教鞭をとる先生方が集まり、大学における教授法を互いに伝授し合うという趣旨のもとに1969年に結成された。毎年、約80名位の参加者があるそうだが、今年は約50名の参加でアットホームなセミナーであった。

ハワイ島に到着すると、全米から集まつて来た先生方と合流し、宿泊地のキラウェアミリタリーセンター(KMC)へバスで向かう。私はハワイ島を訪れるのは、初めてで、バスに乗つたとたん、その少し異様な光景に驚いた。背の高い樹々の間をバスは、どんどん上り詰めて行き、気温は下がつていった。枯れたような黄土色の草原が現れ、所々、白い湯気が沸き上がつてゐる。ここは、世界的にも有名な活火山、キラウェアのある島なのだ。私も沖縄県という島に住んでゐるにも関わらず、太平洋の真ん中の、いつ噴火しても不思議でないこの島に来て、大変な所に来てしまつたものだと、少し興奮気味であった。

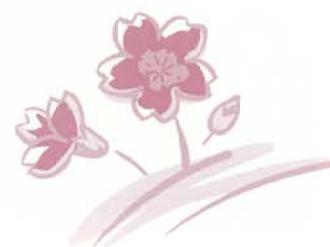
KMCに到着すると、セミナーの最高責任者であるラリー・藤中先生やハワイ州出身のスタッフの先生方が暖かく迎えて下さつた。参加者は登録を済ませた後、3~4人のグループでコテージに割り振られた。このセミナーは、普通の研究会とは違うユニークな方針を貫いてゐるといひ聞いていたが、それは、その晩の自己紹介から始まつた。50人の参加者がホールに集まり、5分間、自由自在に歩き回つた後、今まで全く面識がなく、興味を覚えた人と組んでお互いを紹介しあい、その結果を皆の前で発表する。自己紹介ではなく、今、出会つたばかりの人の紹介なので、相手に失礼にならないよう、丁寧に紹介したり、アメリカ人気質も混じつて、お互いにユーモアも交えながら、楽しいひとときになつた。

二日目には、このセミナーの創設者の一人であるイリノイ州College of Dupageのゴットシェル博士からセミナーの趣旨や成り立ちに関する説明が行われた。このセミナーを行うにあたつて、参加者はハワイに来る前に、自分の教授法で成功した例と失敗した例を一つずつタイプして参加者の人数分、用意しておかなければならぬ。セミナーが始まるとそれを基に、6、7人の小グループに分かれ、自分の教授法を紹介し、それについて討論する。さっそく午後から、用意してきた失敗した教授法の

発表を行つた。一人五分間ほど内容を説明した後、グループメンバー全員から、どのように解決したらよいかコメントや解決法をもらう。世界中のどこにいても、問題は同じで、誰もが自分と同じように悩んでいるのだということを痛感させられた。午後は、また、再編成されたグループで成功した教授法について同じことを行つた。学生を教えるに際し、似たような問題に直面しながらも、楽しみながら学ばせようという先生方の努力と工夫を感じられ、目から鱗が落ちたような心境になったものだつた。各グループには、スタッフが司会者として配置され、参加者全員に紹介したいと思うものを取り上げて全体会で発表させた。

このセミナーの教えは、一言で言うと、効果のある方法は全て取り入れ、自分のクラスでも実践するということである。成功した教授法や、授業中に学生の集中度を増加させる方法、課題の出し方など、多くの事例を目の当たりにして、改めて自分の教授法を振り返つたり、壁にぶつかつていた問題に糸口が見つかったような気がした。美しいハワイの自然の中で、実践的な教授法を学べるだけでなく、教えるということの価値や楽しさを蘇らせるてくれるような哲学的なセミナーであり、以前、参加された本学の先生方がおっしゃったとおり有益なものであった。このようなすばらしいセミナーにはなるべく多くの先生方が参加してほしい。また私自身、機会があれば毎年、参加したいと思う。

1999年3月、このセミナーの支援を受けて、本学が沖縄女子短期大学と合同で、沖縄インターナショナル・グレート・ティーチャーズ・セミナーを開催する。全琉の小、中学、高校、短大、大学の先生方を集めて英語で行われる。地元でもこの画期的なセミナーの輪を広げられると思うと、今から楽しみである。





自信あれば、 将来が見えてきた

英語科2年次 郝湘竹



三年前、将来が見えずに悩んでいた私が、日本語を勉強するため沖縄へきました。最初の頃、早めに日本語を話せるようになりたい私が、毎日テレビを見たり、日本語の歌を聞いたり、日本人の言葉をまねしたり、必死に勉強しました。半年後、私は日本語学校の特待生になりました。言葉の壁を突破したら、沖縄での生活はより一層楽しくなってきました。でも、今の時代、日本語だ

けじや生きていけません。今満足すればダメになると思っていた私がキリ短へ進学することに決めました。専攻は英語学。日本語を勉強しながら、英語を学ぶということは私にとって、大きなチャレンジでした。頑張れば頑張るほど順調になります。この2年間、日本語能力試験I級を合格して、英語力もアップしました。昨年の夏、ミシガン州立大学へ海外研修を参加して、短い期間ですが、いい経験になりました。私は進む方向が見えたのは、海外研修の時でした。アメリカのホテルで働いているインドネシア女性を見て“この仕事なら一生働ける”と思っていました。キリ短での勉強生活あとわずか1ヶ月、その後、アメリカへ留学したいと思います。

キリ短祭を終えて

学生会会長 宮里 優子

“SELF-REFORMATION”～未来に羽ばたく新しい自分を探して～をテーマとして第34回キリ短祭を無事終了することが出来、ホッと一安心しているところです。

キリ短祭1ヶ月前には、学生会メンバー、ヘルパーが一緒になって、キリ短祭に向けていろいろな案を出し合ったり、あっちへこっちへと忙しく走り回っていました。時にはぶつかりあったり、投げ出したくなることもありましたが、お互いに励まし合い、助け合い、あっという間に、キリ短祭がやってきました。

キリ短祭が始まると、充分に準備したつもりでいたことが、所々で問題が生じたり、足りないものがあったりと、不備がでてきて、反省点が多いなど実感させられました。



前日祭も含め3日間のキリ短祭が終わった時には正直いって、充実感よりもやっと終わったという安心感で、ぬけがらになったような気がしていました。

多くの反省点を残し終わったキリ短祭ではありましたが、今年の反省を来年に生かし、素晴らしいキリ短祭になれば私たちのキリ短祭も意味のあるものになると思います。

最後に、キリ短祭成功のために、ご支援、ご協力下さった全ての方に心より感謝申し上げます。



キリ短ありがとう

英語科2年次 鄭 堅



二年半前、科目等履修生として、キリ短に入学し、その後、英語科に進み、いよいよこの3月に、卒業を迎えるとしています。キリ短で、多くの人達と知り合いになり、良い勉強になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

入学した時は、日本語がとてもへたでしたが、日本語の先生はいつも親切丁寧に指導してくれました。先生方のいいアドバイスはもちろん、事務の方も何とか親身になって相談にのってくださいました。おかげ様で、自信と責任をもって、最後まで頑張ってくことができました。

キリ短は、小さい大学ですが、いい交流のチャンスを与えてくれるキャンパスです。独特の学校行事に魅力を

感じました。新入生のオリエンテーションキャンプ、クリスマス祝会など、学校でのいろいろなイベントやサークル活動があり、勉強しながら、いろんな人達と自由な交流もできました。日本のことや沖縄の文化を勉強し、充実して学生生活を過ごすことができました。

キリ短では、男子学生が少ないので、最初は少し恥ずかしかったです。でも、勉強の中で、若いクラスメートと交わり、日本のことだけでなく、自分の国、中国のことも改めて知ることができて、楽しい学園生活を送っていました。特に去年の9月に、フィリピンフレンドシップキャンプの一員として、日本人の学生たちと一緒にフィリピンに行き、現地を見学したり、国際交流（比、日、中）したりして、みなさんからのよいアドバイスをもらったことは、自分のこれから的人生に役に立つことでしょう。

学ぶことは、本当に楽しく、とても大切なことです。若いキリ短生、人生の夢の実現のために、これからも共に頑張りましょう。

キリ短で学べて、本当によかったです。
キリ短、ありがとう！

「運玉義留」

～公演を終えて～

英語科1年次
和



去年の12月2日、3日、沖縄市小劇場「あしひなー」にて、英語劇クラブ“メルローズ”的17回目の公演となる「運玉義留」は、無事、成功を収める事ができました。公演というものは、本当に周りの協力なしには成功するものではありません。私は今、陰ながら私達に力を貸してくれた人々、温かい激励やアドバイスをくれた家族、先生方、友人達、そして、観客として会場に足を運んでいただいた皆さんに対して、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の公演は私達、メルローズにとって、今までとは一味違うものだったといえるでしょう。まず、例年はグレイ先生に台本を提供してもらっていましたが、今回はなんと部員自らの手で台本の作成を担当しました。文学作品ではなく、沖縄の伝説の一つである「運玉義留」を選んだ理由は、英語が分かる、分からぬという事を関係なしに幅





がんばってます！卒業生!!

1957年創設以来、8000人余りの卒業生を世に送りだしてきました。各分野でパワフルに活躍している卒業生ですが、どなたにも、伝統の“キリ短スピリット”が脈々と受け継がれているのが感じられます。これからの益々のご活躍を期待致します。

「人が自分を磨き、輝かせる」

(株)ノエビア沖縄支店 宮城 文美



私がキリ短を卒業して、早11年になります。現在、(株)ノエビア沖縄支店の営業インストラクターとして、勤務しています。

化粧品会社の営業インストラクターとして10年になりますが、仕事をしていく中で、多くの事を学びました。皆さんもこれから、自分自身を「成長させていきたい」「磨いていきたい」と思われている事でしょう。私も仕事をしていく中でそれを学びました。

その一つに「人は人によって磨かれる」という言葉があります。美容の業界では、よく女性をダイヤモンドの原石に例えます。ただの石ころにしか見えない原石をカットし磨いていく事で、美しく光り輝くダイヤモンドに変わっていく過程を女性が美しく変身していく様子と例え

たのです。では、ダイヤモンドは何でカットし、磨いていくのか知っていますか？ダイヤモンドは地球で一番硬い鉱物です。それをカットし、磨いていく物は同じダイヤモンドしかないのです。

人も同じ事がいえるのです。人を磨く、自分を磨くという事は、人しか磨いてはくれないという事なのです。ですから、多くの人と出会えば出会う程、多くの情報があり、多くの経験が身に付き自分が変わり、磨かれ光り輝く事ができるのです。

学生生活の中では、社会に出てからとは別な多くの出会いや経験ができると思います。今しかない、この時期に積極的に多くの人と出会い、色々な事にチャレンジする事が自分自身を磨く事にもつながり、そこから自分が何をしたいのか、何ができるのか「自分の可能性」を見つけるきっかけにもなると思います。

現代は、「人は見かけの時代」とも言われております。第一印象が人を判断する一つの目安にもされてしまします。外的な美しさは私達がお手伝いをさせて頂きますが、内面的な美しさは、是非多くの「人との出会い」を通して光り輝かせて下さい。

(29期保育科卒業)

Challenge Yourself (上)

日本電気フィールドサービス㈱ 伊是名 かすみ



「チャンスを造るのは自分であり、自分の可能性は無限である！」キリ短時代に学んだ、その言葉を胸に秘め、ジュネーヴ（スイス）の国連欧州本部で開催されたある国際会議に参加してきました。

その会議というのは、世界中の先住民一例えばアイヌやマオリ、もちろん私達琉球民族の置かれている現状や、抱えている問題を国連機関や政府、NGOそして先住民が話し合い、国内で解決できない問題を国連の場で検討していくというものでした。

英語科を卒業して、コンピュータ会社に勤めている私が何故その様な会議に参加する事になったのか？

「国連会議に参加しませんか？」そんな軽いタッチの新聞記事が目に止まったのです。

う～ん・・・目が合ったと言っても良いかもしれません。

先住民について勉強しているわけでもなく、テーマの「教育と言語」に精通しているわけでもない私が「よしあ、応募しよう」と思ったのは、きっとキリ短で培った「自分の可能性を信じる」というスピリットが背中を押してくれたからだと思います。

でも、大変だったのはそれからで、勉強なんて短大時代以来だったのに毎日が歴史の本や、人権問題の本等開いたことも無いような書物とのにらめっこ日々。自分の知識の乏しさに閉口したものでした。

しかし、世界中の人々と交流したり、生まれた土地の重要性を考え直してみたりで、その会議で得た経験は大変貴重で自分の事やごく身近な事ばかり考えていた私にとって沖縄を、そして自分の足元を見直す良い機会になる本当に素晴らしい有意義な会議でした。

おかげさまで今ではワールドワイドに友人が出来、世界中とE-Mailの交換をする毎日です。

皆さんも自分の中の可能性に目をつぶらずに、自分を信じて、いろんな可能性にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。

以下次号に続く。

(33期英語科卒業)

今ある「出会い」を大切に

沖縄海邦銀行人事部 木脇 清美



皆さまお元気ですか。卒業してだいぶ経ってしまいましたが、今でも在学時代のことを懐かしく思い出されます。私の基礎（性格）がつくられたのは、きっとキリ短時代なのです。レナウン娘第1号として各行事で踊っていました。♪ドライブウェイに春が来りや♪と皆が大合唱する中、少しエロチックに踊っていくのですがご存じですか？とても楽しく必ず宴会を盛り上げるこの踊りは、海邦銀行に就職してからも私の武器となりました。在学中に育んだ度胸で、どんなことにも前向きに取り組

ソウルより 「アンニョンハセヨ」

沖縄県同時通訳者韓国研修生 仲村 美香



皆さんこんにちは。沖縄では相変わらず暖かい日が続いているのでしょうか？ここソウルでは雪も降り朝晩は零下という寒さの毎日です。沖縄県同時通訳9月派遣研修生としてソウルに滞在し気づけば3ヶ月が過ぎました。その間に韓国語の研修と共に様々な経験をしました。

現在、「延世大学校韓国語学堂」に在籍していますが、その大学は新村（シンチョン）という学生街に位置しています。近隣には梨花女子大学他何校かが位置しており、夜になると学生で街は賑やかになります。そこで見た光

39期卒 長浜栄子さんに感謝状

1998年11月で、長年勤務のKDDを退職なされた。その退職金の一部、100万円を四年制大学建設のために役立ててほしいと寄付された。

長浜さんは、勤務を続けながら本短大の英語科を1997年に卒業した。長浜さんのキリ短への深い思いを讀えて、1999年1月29日3時より、感謝状の贈呈式が挙行された。学長から「この感激を皆様にお伝えして、長浜さんの後につづいていただきたい」との言葉があった。



むことができました。物事を常に人ごとではなく自分ごとで捕え、自分に今できることを考える習慣やいつでも自分を開いて心明るく生きることなど、本当に大切な部分をキリ短では学ばせていただいたと思います。この基礎があったお陰で、コミュニケーション能力もどんどんアップしていき、現在は沢山の出会いを満喫しております。銀行では研修担当として10年になりますが、これまでの出会いも、現在進行中の出会いもとてもすばらしいものでした。出会いの度に勉強になり、元気になり、パワーアップしていく感じなのです。そのためには、自分のパワーも全開するようにしています。今日出会った人にも私と同じように感じていただけるようにです。皆さん、その基礎を身につけるコツは今ある出会いを大切にすることですよ。

それではいつかお会いする日まで、ごきげんよう！
(24期保育科卒業)

景なのですが、酔った学生達がお互いに円陣を組んで校歌や国歌を唄い踊っているではありませんか。その光景を見かける度に韓国人は愛校心、愛国心が日本人以上に強いことが感じられました。朝になると街の所々に落とし物？（飲み過ぎの為）が残っているのですが、それがほとんど赤っぽい色をしているのです。やはりキムチの国だと思いました。

隣国の韓国での研修生活、出発する前までは北朝鮮問題や日本に対するイメージなどを考え不安な気持ちもあったのですが、いざ生活してみると毎日が充実し確実に視野や知識が広まっていくことが実感できます。皆さん、「百聞は一見にしかず」です。

もし、海外あるいは県外で滞在出来る機会が与えられるのなら、迷わずチャレンジしてみてください。そこで培った知識、経験は必ず役立つ機会があるからです。私も残りの研修期間を悔いの無いよう精一杯頑張ります。

(35期英語科卒業)

キャンパスニュース

キリ短を去るにあたって

保育科助教授 渡久山 朝裕

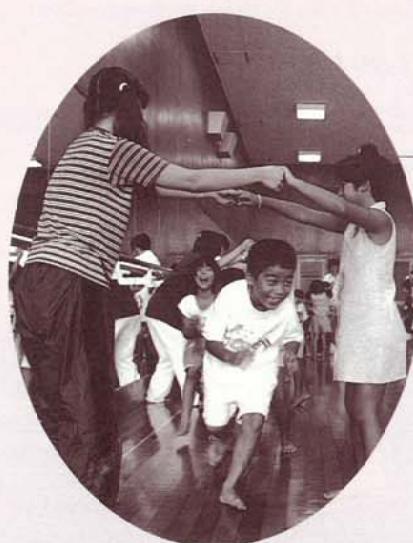


今年度限りでキリ短を辞任することになりました。1999年4月に開学する県立看護大学で働くことが決定したからです。某精神病院の臨床心理士だった私が保育科に採用されてから8年程の歳月が経ちましたが、今振り返ると長かったようにも思えますし、短かったようにも感じられます。就任当時、私が感じたキリ短への最初の印象は教員、事務職員、学生間の心理的距離が短いということでした。キャンパスに慣れていくに従って、学生一人一人を大切にしているという雰囲気も随所に感じられ、さすがにキリスト教を建学の精神としている短大だと感服いたしました。例えば、入学式に一人一人の名前が読み上げられる新入生、卒業式に一人一人が壇上で学長から直接卒業証書をいただき握手をする卒業生など、マンモス大学出身の私はそんな学生達をとてもうらやましく見つめたものでした。他にも、渡嘉敷島で行われる新入生オリエンテーションキャンプ、バラエティーに富んだ奨学金制度、障害を持つ学生への親身な心配り等々、数多く上げますが、40年余の歴史が培ったすばらしい学風が息づいているのを肌で感じました。しかし、18歳人口の減少や少子化による歪み、無責任な個人主義や価値観の多様化など、時代の波はキリ短にも確実に押し

寄せていて、ここ数年、学生達の内面や行動に生じている変化は見逃せません。短大側の意図と学生達の要求が乖離してしまうことも十分考えられます。キリ短の慣習や伝統を見直さざるを得ないケースもこれから出てくるでしょう。たとえそうではあっても、時代に流されるのではなくその波を上手につかんで、変わるべきところは変わり、守るべきところは守り、キリ短の居るべき座標を見失うことなく教育を推し進めていただきたいと願っています。

それから、保育科をはじめ、教職員の皆様には大変お世話になりました。保育科内に限らず、全学的にも様々な委員や役割を与えて下さり、教育者・研究者として育てていただいたことに心から感謝申し上げます。その保育者養成に関わりながら、もう一方で私は臨床心理士として精神障害者への心理療法に長年携わってきたのですが、その経験を今度は看護職者養成で活かすことのできる機会を与えられました。奇しくも来年度から幼稚園教諭免許に私の専門分野であるカウンセリングの単位が必要となり、まさにこれからキリ短にお返しをしていくべきときに辞任するというのはなんとも申し訳なく、心苦しい限りなのですが、教育分野と比較しますと医療分野の方が私の専門性やアイデンティティーにより近いという事情をご理解いただき、今回の身勝手をお許しいただきたいと存じます。

最後に、4年制大学の設置計画が順調に進みますこと、キリ短の益々のご発展をお祈りいたしまして辞任の言葉と致します。



地域の仲よしプログラム

8月19日から21日までの3日間、地域の子供たちや父母に大学キャンパスを解放した。教師や学生と子供たちが、共に遊び共に遊ぶことを通じて大学を身近に感じてもらうという初の企画である。初日から100名余が参加し、歌やリズム遊び、英語の文字遊び等を楽しんだ。

子供たちの明るい笑い声が、キャンパス内に響きわたった3日間。年令差をこえ、共に遊び共に遊ぶとは、子供たちの心を豊かにそして人間関係を豊かにするものであった。学生の意識の向上と教育の質を高めるのを多いに刺激したのに加え、地域に根ざした教育を掲げる本短大の教育理念が生きた3日間であった。

1位 石川さん(沖縄尚学3年) 新設校 那覇国際高から 大浦さん 3位入賞



高校生英語弁論大会

OKINAWA CHRISTIAN JUNIOR COLLEGE
ENGLISH ORATORICAL CONTEST
FOR SENIOR HIGH SCHOOL STUDENTS



第10回高校生英語弁論大会が、1998年12月12日(土)開催された。西原移転記念事業の一環として始めた本大会は、ちょうど10回目を迎えた。

回を重ねるごとにますます充実し、今年度も盛況のうちに終った。26校が応募し、その中から原稿とテープ審査の予選を通過した12校の代表が本選にのぞみ、日ごろの英語学習の成果を発表した。

高校生の英語による意見発表とコミュニケーション能力の高揚を目的とした本大会は、今や、沖縄の若者の英語力向上の一翼をになうまでに成長したようだ。

入賞者は以下のとおり。

1位	色弱	石川 由美子	沖縄尚学高校 3年
2位	目が語るもの	嘉数 卓洋	名護高校 3年
3位	言葉の魔力	大浦 菜津美	那覇国際高校 1年
西原町教育委員会教育長賞(島田賢松)	コミュニケーションを通して学んだこと	小渡 玲緒奈	開邦高校 1年
日本総合整美株式会社社長賞(古川喜美男)	世界中のすべての人が幸せになる日のために	舛田 陽子	西原高校 1年
沖縄キリスト教短期大学学長賞(原喜美)	援助交際に誘われて	上地 真理	那覇西高校 2年

※副賞として、1位入賞者には、琉球放送株式会社より5万円。2位入賞者には、株式会社国際システムより3万円。
3位入賞者には、西原球陽堂書店より2万円が、それぞれ奨学金として授与された。他に賞状、トロフィー、英語辞典を授与。

★研究ノート

- Lyle E. Allison A Proposal for an Aural English Language Classroom
漢 那 審 治 マンガと読書
—マンガは読書への動機づけとなるか—
Masako Takezawa The Role of Feminism in Social Work Practices
—Influence of Female Managers on Female Work Performance in the United States—

★文献レビュー

- Saori Hirakawa Gender-role Transcendence in Adolescent Female Students:Cognitive Developmental Perspective

★資料

- 神 里 博 武 沖縄における5歳児保育問題(Ⅱ)
—市町村行政・保育所における5歳児保育の実施状況調査結果を基に—
神 里 博 武 沖縄における5歳児保育問題(Ⅲ)
—市部郡部間、公私間、規模別比較を中心に—
大 城 宜 武 高齢期の生活における快適性認知に関する横断的研究
大 城 宜 武 下川凹天研究(4)一下川凹天 路年譜—

「沖縄キリスト教短期大学紀要」第27号を発行

1998年度『沖縄キリスト教短期大学紀要』を12月に発行した。内容は以下の通り。

★巻頭言
原 喜 美 言頭関係の構築

★原著
Shigemi Kamiyama CHURCH ORDER AND CHURCH MINISTRY in Calvin
新 川 右 好 Theodore Dreiser のAn American Tragedyを読む
—主人公クライド・グリフィスに見る無道徳についての考察—
大 山 伸 子 沖縄県における郷土音楽学習のあり方
—カントカラ三線の実践を中心に—
渡 久 地 啓 沖縄県における老人医療費に関する一考察



台湾フレンドシップ レポート

「私が見た台湾」

英語科1年 保坂 麻希子



同じ箸を使う国でありながら、異国情緒豊かなアジアに以前から興味を持っていた事、安い価格と“原住民との交流”という内容に魅力的で「台湾フレンドシップキャンプ」へ参加しました。

今でも、一緒に行ったメンバーに会うたび、台湾での思い出や感じた事、学んだ事が走馬灯のように頭を過ります。私達は、三地門と桃源という所に滞在しました。両地で共通した事は、60代以上の方は殆ど日本語を上手に話し、又、日本名まで持っていた事です。

過去に日本が犯した過ちや、一番近い国・台湾について何も知らなかった事を何度も痛感しました。

私たちが活動した現地は、政治・経済の中心地である都市部の台北と違い、生活レベルの低さに戸惑いを感じたのは正直な気持ちでした。しかし、日本よりは精神的に豊かな生活を送っていると伺える子供達の届かない笑顔。そして自分達の文化や生活様式を後世に伝えようとしている牧師の白先生の考え方によって、9日間という短い日程の中で、私達は歴史の重みと社会への適応性を学びました。個人的には、日本と台湾の歴史的背景や文化・民族の生活習慣は然る事ながら、語学の必要性を改めて感じ、又、自分自身の将来図を少しながらも描いた機会もありました。

そして最後になりましたが、台湾で出会った多くの人々、一緒に行ったメンバーと、このキャンプを企画して下さった先生方に、心から感謝します。有り難うございました。

新任カウンセラー 自己紹介

田崎 幸枝



私は昨年11月よりここ沖縄キリスト教短期大学に非常勤の女性カウンセラーとして勤務することになりました。

私は、日本大学文理学部心理学科を卒業後、同大学医学部精神神経科教室にて、精神療法、心理療法、心理検査などのトレーニングを受け、その一方で東京都や近県の教育相談所や児童相談所で相談業務に従事していました。主に児童の遊戯療法やその母親の面接、また思春期の心理療法を担当していました。沖縄に転居してからは精神科の病院でやはり思春期から青年期の患者を対象に心理療法を行っておりました。

本学に勤務当初は、初の外部からの女性カウンセラーの起用とあって学生部も、そして学生相談に初めて従事する私たちは戸惑いましたが、現在は周りの方たちの理解を得て、とても心地よく仕事をさせて頂いております。利用する学生が少ないのではないかといった懸念もありましたが、教科を持つこともなく、また外部からの非常勤といった気安さもあってか、初日より何人かの学生たちが利用してくれることとなりました。深刻で重い

悩みもありますが、学生生活のこと、恋愛のこと、体調のことなど様々な話があって、学生相談ならではの妙味を味わっております。また混沌とした世相を反映してか、多くの学生がカウンセリングに対して関心を持っていることにも驚いています。

深い悩みや深刻な話に精一杯の援助をすることはもちろんですが、カウンセリングのことやもつともっとたわいもない話でもどんどん学生たちが私に会いにきてくれるようなそんなカウンセリングルームにしていくと願っております。

公開講座の案内 (1999年度前期定例講座)

4月開講予定の公開講座は、次のとおりです。

■講 座 名: やさしいキリスト教入門Ⅰ(毎週木)

講 師: 神山繁實(総合教育系教授)

■講 座 名: 初級イタリア語(毎週水)

講 師: 島袋忠雄(英語科教授)

■開講期間: 1999年4月~7月

午後7時~8時30分 全15回

※申込期間: 1999年3月29日(月)~4月2日(金)

TEL (098) 946-1240(企画課)



寄付感謝報告

募金へのご協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

指定寄付(1998年8月1日から1998年12月31日まで)

個人 3,255,000円 団体 2,768,770円 合計 6,023,770円

四年制大学設置資金

【父母】

安里 長協	10,000
浦崎 直秀	30,000
翁長 幸子	5,000
垣花 徳男	5,000
儀間 恵美子	30,000
吉田 忠	20,000
久銘次 利男	5,000
宮城 廉	5,000
金城 敏夫	20,000
山城 則男	20,000
成底 登	50,000
石原 利秋	5,000
津波古 充治	10,000
樋原 教宏	10,000
波平 幸光	10,000
平良 範子	20,000
名城 嗣也	10,000
當眞 嗣吉	10,000

【一般】

斎藤 くるみ	10,000
川西 康裕	10,000
門井 利男	10,000
斎藤 美津子	13,385

【学内関係者】

比嘉 國郎	713,000
原 喜美	430,000
神山 繁實	50,000
前里 光盛	90,000
漠那 憲治	30,000
山城 真紀子	50,000
山原 惠治	50,000
神山 美代子	25,000
比嘉 健次郎	71,594
山里 恵子	50,000
柳澤 千恵子	43,000
島袋 忠雄	100,000
宮国 薫子	25,000
与儀 勝彦	10,000
新垣 政信	1,973
宮元 和子	25,000
吉濱 幸子	10,000
伊波 智子	3,000
金城 重明	15,000
新川 右好	80,000
石川 清治	100,000
伊波 健二	30,000
神皇 博武	30,000

【在学生】

和宇慶 陽	3,161
長井 茜	833
富本 由利香	976

【団体】

日北米宣教協力会	128,770
西原町人づくり支援の会	600,000
とわの森三愛高等学校	10,000

施設設備

大城 実(教職員)	70,000
神里 博武(教職員)	50,000
和田 新之助(一般)	50,000
32期保育科	50,000

奨学金

松島 寛容(一般)	240,000
三協電気工事(株)	60,000
原 喜美(教職員)	50,000
城間 勉(教職員)	16,000

高校生英語弁論大会

琉球放送株式会社	100,000
株式会社国際システム	30,000
西原球場	20,000
日本総合整美株式会社	20,000
原 喜美	10,000

その他

キリ短同窓会	1,500,000
キリ短後援会	300,000
大城 宜武(教職員)	50,000

